

shen ji miao suan

第11回:神機妙算(神机妙算)

日本の寄席で「なぞかけ」という出しものがある。～とかけて何ととく～そのところは～というやつだ。中国にも同じような遊びがあり、これを中国語で「歇後語(けつごご)」という。

文革中の1971年に毛沢東主席が、かつて延安を取材し「中国の赤い星」を著した米国ジャーナリストのエドガー・スノーに再会し、毛主席は別れ際に自分のことを「和尚打傘 = 坊主が傘を差す」と発言した。主席の通訳ナンシー・タン女史(唐聞生)が英訳し、これを聞いたスノー氏はそのまま理解し、よせばいいのに下手な文学的表現で「私は破れ傘を手にした孤独な修行僧にすぎない」とライフ誌に発表し、日本のさる新聞社もそのまま転載してしまった。

文革を発動した毛沢東が「孤独な修行僧」のわけがないだろう。中国の歇後語を知らなかったために生じた誤報であった。正解は「和尚打傘」とかけて「無法無天 = ならずもの」ととく。そのところは「無髪無天」。

解説:「法」と「髪」の発音(ファ)が同じところがミソ。(剃髪した)僧侶が傘をさすと、どうなるか? 「髪がない、天も見えない」…、転じて「おれは法も天も恐れないアウトローだ!」となる。

別に難しいゲームではない。日本でいえば、地口にあたる。下品な表現で恐縮だが「便所の火事」のころは、「ヤケクソ」である。

日本は漢字をいまでも使用しているから、中国版の地口もある程度は理解できるが、これを欧米人に理解させるのは難しいようだ。そもそも表意文字である漢字の英訳は難しい。

ジョン・ウー監督の大作映画「レッドクリフ(Red Cliff)」が間もなく日本でも公開されるが、初めてこの題名を聞いたとき、これが三国志の戦場「赤壁」のことと理解するのに時間がかかった。故宮のことを別称で「紫禁城」というが、これが英訳では「Forbidden City」になってしまう。

さて、新作レッドクリフでは、金城武が諸葛亮(孔明)、トニー・レオンが周瑜を演じる。三国鼎立の時代になるきっかけとなった天下分け目の戦いであり、蜀の軍師・諸葛孔明と、呉の英傑・周瑜が時に競い、時に協力しつつ魏の梟雄・曹操と対決する三国志の大一番である。中国には西遊記・水滸伝・金瓶梅など広く大衆に愛された作品が多いが、その筆頭は何といても血湧き肉躍る三国志(三国志演義)だろう。「脾肉の嘆」、「苦肉の計」、「空城の計」、「白眉」など、三国志をルーツとすることわざも多い。

赤壁の戦いでも、孔明が夜陰に紛れて矢を盗む「草船借箭の計」、老将黄蓋が敵軍を欺くために鞭打たれる「苦肉の計」、曹操の艦隊を鎖で繋ぐ「連環の計」などの名場面が数多く登場するが、最も有名な

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

場面は孔明が祭壇に祈り、その時期に吹くはずのない「東南の風」を呼ぶ場面であろう。孔明が天気予報の才があると知らない周瑜は東風が吹き出したのを見て震え上がる。

有名な歇後語に「諸葛亮借東風 = 孔明が東風を呼ぶ」というのがある。そのところは「神機妙算 = 人智の及ばない素晴らしいアイデア」である。この解釈には諸説あるが、要は孔明が周瑜を驚嘆させた一連の知恵をまとめて総称するようだ。

この「借東風」は、いまでも中国でよく使われる地口である。中国人は露骨な表現を嫌う。たとえば、会社で部下が素晴らしい企画書を提出したときに、上司はそのまま賞賛するのではなく、さりげなく「君の提案は正に『諸葛亮借東風』だね」といえば、インテリらしく、洒落た表現になるようだ。それを聞いたゴマすり部下も「謝々」と言うかわりに、(急いでことわざ辞典を調べ)気の利いた歇後語で切り返せば、さらに麗しい上司との関係が構築できるのだと中国人はいう。ゴマすり技術において中国人は日本人を遥かに凌駕する。

神機妙算は中国人の編み出した言葉である。世界経済の雲行きが不透明な中で、世界経済の牽引車である中国にもやや疲労が見える。

かつて毛沢東主席はモスクワで「東風は西風を圧する」と演説した。これは「社会主義(東側世界)がいずれ資本主義(西側世界)を圧倒する」という意味であり、残念ながらこの予言は外れ、社会主義の敗北は明らかとなった。しかしユーラシアの二大権力国家は依然として健在である。即ち成長ドライバーを「資源独占」とするロシアと、「資本独占」とする中国である。どちらのモデルが正解かまだ判断はできないが、ロシアのモデルはいま大きな国際的軋轢を生んでいる。

中国もロシア問題をよく理解する必要がある。世界は中国に対して新たな東風を呼ぶ神機妙算の知恵を熱く期待しているからである。(了)

平成 20 年 9 月 16 日

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。